

資料2 施設の全体像について

複合文化施設の方向性

▶新施設での実施事業について

新施設では、これまで文化芸術の様々な活動に取り組んできた市民・団体等が、今後も継続して活動できる環境を提供していきます。

さらに、文化芸術の裾野を広げ、地域に根付かせていくため、世代に応じた文化芸術の推進に取り組めます。その一環として、文化部活動の地域移行を受け、中学生・高校生の新たな文化芸術活動の場として利用促進を図る他、若者視点での事業を展開する等、若い世代に文化芸術活動が根付く事業を展開します。

また、新施設の利用促進へつなげるため、アウトリーチ事業を積極的に導入していくとともに、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育といった各関連分野と連携した事業も実施していきます。

▶ホール機能について

メインホールは、文化芸術活動の発表の場としてのみならず多様な活動へ利用できる形態とし、600人～800人を収容できるものとします。サブホールは、150～200人が収容可能な規模とし、座席やステージを可動式とするなどの工夫をすることにより平土間形式で利用できるものとしていきます。

▶ホール以外の機能について

あらゆる文化芸術活動の拠点を目指すことから、「市民ギャラリー」「アトリエ・工作室」「音楽スタジオ」「和室」の整備を目指します。ただし、和室については必要性等について把握し、整備形態については引き続き検証します。

また、幅広い世代の人々に利用してもらい、多世代交流や賑わいを創出していくため、「図書スペース」「会議室」「学習スペース」「調理室」「キッズスペース」「民間テナントスペース」の整備を目指します。

複合文化施設の方向性

▶建設地について

3つの候補地のうち、「鹿島鉄道跡地」「市営駅東駐車場」を最終候補地とする。ただし、審議会等において、鉄道敷に隣接することによる振動や騒音といった懸念事項が示されたことから引き続き、検討を行い、最終答申までに建設地をひとつへと絞り込みます。

▶事業手法について

▶今後について

上記の記載内容を踏まえ、今後さらなる検討を進めていきます。

令和5年度～令和6年度	基本計画策定
令和7年度～令和8年度	基本設計・実施設計
令和9年度～令和11年度	本体工事
令和12年度	供用開始

メインホール

新施設のメインホールは、600～800人程度が収容可能な、音楽や演劇等さまざまな文化活動に利用できるホールとする。

【方向性】

- ▶すぐれた音響性能を備えたホールとする。
→可動式の音響反射板を設置する。
- ▶見やすさを意識した座席の配置等を検討する。
- ▶多様な舞台芸術に対応するため、プロセニウム形式とする。
- ▶客席は段床固定式とする。
- ▶座り心地のよい、ゆったりした座席とする。
(座席幅のサイズや座席間の間隔)
- ▶車いす席の充実(中段付近)等、障がい者や高齢者に配慮した動線を確認する。
- ▶舞台規模は、旧市民会館の規模(間口15m×奥行11m×高さ7m)を目安する。



(小美玉市四季文化館みの〜れ)



(釜石市民ホールTETTO)

サブホール

小規模団体でも利用しやすい施設を目指すため、150～200人程度が収容可能な多目的ホール。ダンススタジオ、軽スポーツ、小規模な集会や講演会、ギャラリー等としての利用を想定。

【方向性】

- ▶座席は可動式(収納可能)とし、平土間形式として利用も可能なホール。
- ▶ステージも可動式(収納可能)とすることを検討する。
- ▶多用途として利用できるような設備(照明、音響、映写等)を検討する。



(石巻市複合文化施設)



(日立シビックセンター)

メインホールとサブホールの関係

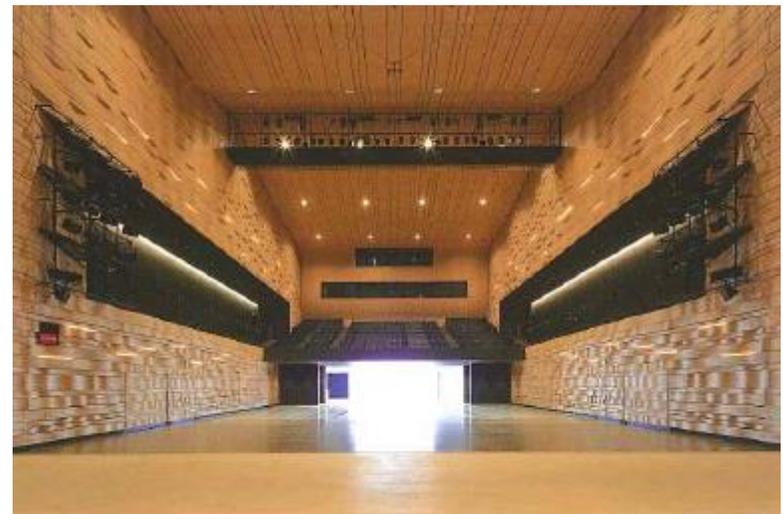
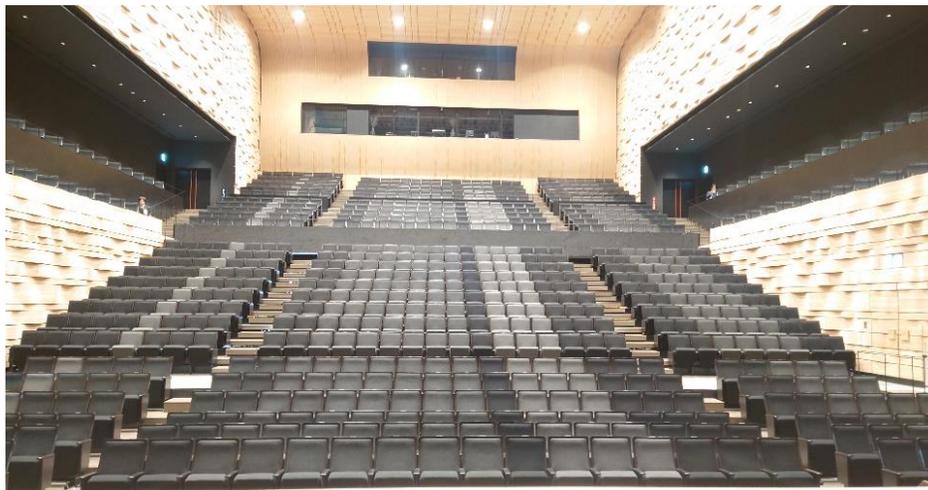
メインホールとサブホールの一体的な利用について検討し、利便性の向上を図ります。

【例】メインホールとサブホールが空間的に一体的になる(釜石市民ホール)

メインホールでの様子をサブホールにおいてライブ中継



小さい観客席を無理なく満席にするとともに、席数以上の観客に対しては施設全体を活用することにより対応。生の体験と映像による配信では質の違いはあるが、会場の雰囲気や熱気は感じる事ができるものと考えます。



参考:釜石市民ホールTETTO

【基本理念】 新たな活力で 輝く未来へ 「文化」「ひと」「地域」の交流拠点

基本方針

身近な文化芸術の
拠点づくり

あらゆる「ひと」に
開かれた空間と交流の
拠点づくり

賑わいを生み出す
拠点づくり

時代のニーズに
柔軟に対応できる
空間づくり

実施事業

- ▶鑑賞事業
- ▶創造事業
- ▶承継事業
- ▶普及啓発事業
- ▶情報発信事業
- ▶人材育成事業

▶交流連携事業

- ▶情報発信事業
- ▶創造事業

- ★世代に応じた文化芸術の推進
- ★若者視点による事業展開
- ★「文化芸術」とまちづくり、国際交流、福祉、観光、教育との連携事業の実施

★文化部活動の新たな活動拠点

文化芸術を
体験する

文化芸術を
発信する

文化芸術を
承継する

多世代との交流

賑わい創出

- ◎市民ギャラリー
- ◎創作活動スペース(工作室、音楽スタジオ、和室等)

- ◎市民活動スペース
(会議室、学習スペース、調理室等)
- ◎子育てスペース(キッズスペース)、
- ◎図書スペース ◎民間テナントスペース

基本的考え方＝スペースの有効活用(重複利用)

新施設における諸室・スペースについては、有効活用(重複利用)ができるよう検討を進める。



【スペースの重複利用により期待される効果】

- ①施設のコンパクト化することにより建設費や維持管理費の削減
- ②効率的な施設管理
- ③フレキシブルな諸室・スペースの利用が可能となり、多様な活動の創出



【参考】小美玉市四季文化館(みの～れ)

ホール以外の機能

▶地域文化を含むあらゆる文化芸術活動の拠点として必要な機能



市民ギャラリー



アトリエ・工作室



音楽スタジオ



和室

文化
芸術

観る・見せる

創る

奏でる

和む

効果

文化芸術への入口
(興味・関心)

創造力や発想力

表現力や感受性

伝統文化の継承

- 文化芸術を親しむとともに、交流を広げる場
- 文化芸術の新たな鑑賞者と担い手を獲得するきっかけとなる場
- 文化芸術を身近に感じ、気軽に参加・体験できる場

ホール以外の機能

▶多世代交流や賑わい創出といった付加価値をもたらす機能



図書スペース



会議室



学習スペース



調理室



キッズスペース



民間テナント
スペース